

第5章 まとめにかえて

第1節 出雲地方出土の古墳時代の鎌について

三刀屋熊谷1・2号墳からは、鉄鎌が出土している。三刀屋熊谷1号墳から出土したものは、直刃鎌・曲刃鎌と言う従来からある分類に、当てはめにくい形状を呈している。また、2号墳のものも直線的な造りになっており、一般的な曲刃鎌とは、若干印象を異にしている。そこで、県内出土の古墳時代の鎌と形状を比較することで、三刀屋熊谷1・2号墳出土鎌の位置付けを検討してみたい。

知りうる限りでは、島根県内で古墳時代の鎌は約40本が出土しており、その一覧が第5表である。一応、全県的に出土しているが、割合で言えば、出雲部が圧倒的となる。また、鎌の種類は曲刃のものが多く、出土遺構としては古墳・横穴墓が多い。

分類の基準には、前述の直刃・曲刃と言った平面形態、全長・幅・厚さによる大きさ、基部の折り返し位置や折り返し方向などである。なお、着柄角度の問題は、その鎌の機能を特定する上で最も重要な点と思われるが、基部の折り曲げ角度と着柄角度とは必ずしも一致しない（註1）と言う見解があり、また、松廻1号横穴墓出土鎌（15）の木質残存状況と折り曲げ角度の関係は説明し難いことから、分類基準に加えなかつた。

平面形態については、直刃、曲刃、その他とした。直刃としたものは、刃部が直線的で、基部から刃先までほぼ同じ幅で続くものとし、刃先が狭まる平面台形のものも含んでいる。曲刃としたものは、先端部が尖って、刃部が内湾するものとした。これは、蕪の間に刃部を刺し入れやすくするための工夫と、対象に対して、刃部を斜めに当てて引き切る場合の、対象物が滑らないようにするための工夫が施されているものと考えた。この分類基準に当てはめると、三刀屋熊谷1号墳のものは、刃部が湾曲していても曲刃には含まれず、2号墳のものは、背の形状が直線的であっても曲刃と判断される。

鎌の大きさは、小型鎌が全長12cm以下で、刃幅が概して2cm以下のもの、中型鎌が全長12～18cm、刃幅が3cm前後のもの、大型鎌が全長20cm以上で、刃幅が3cm以上のものとする分類（註2）に従った。三刀屋熊谷1・2号墳のものは、いずれも中型鎌と言うことになる。

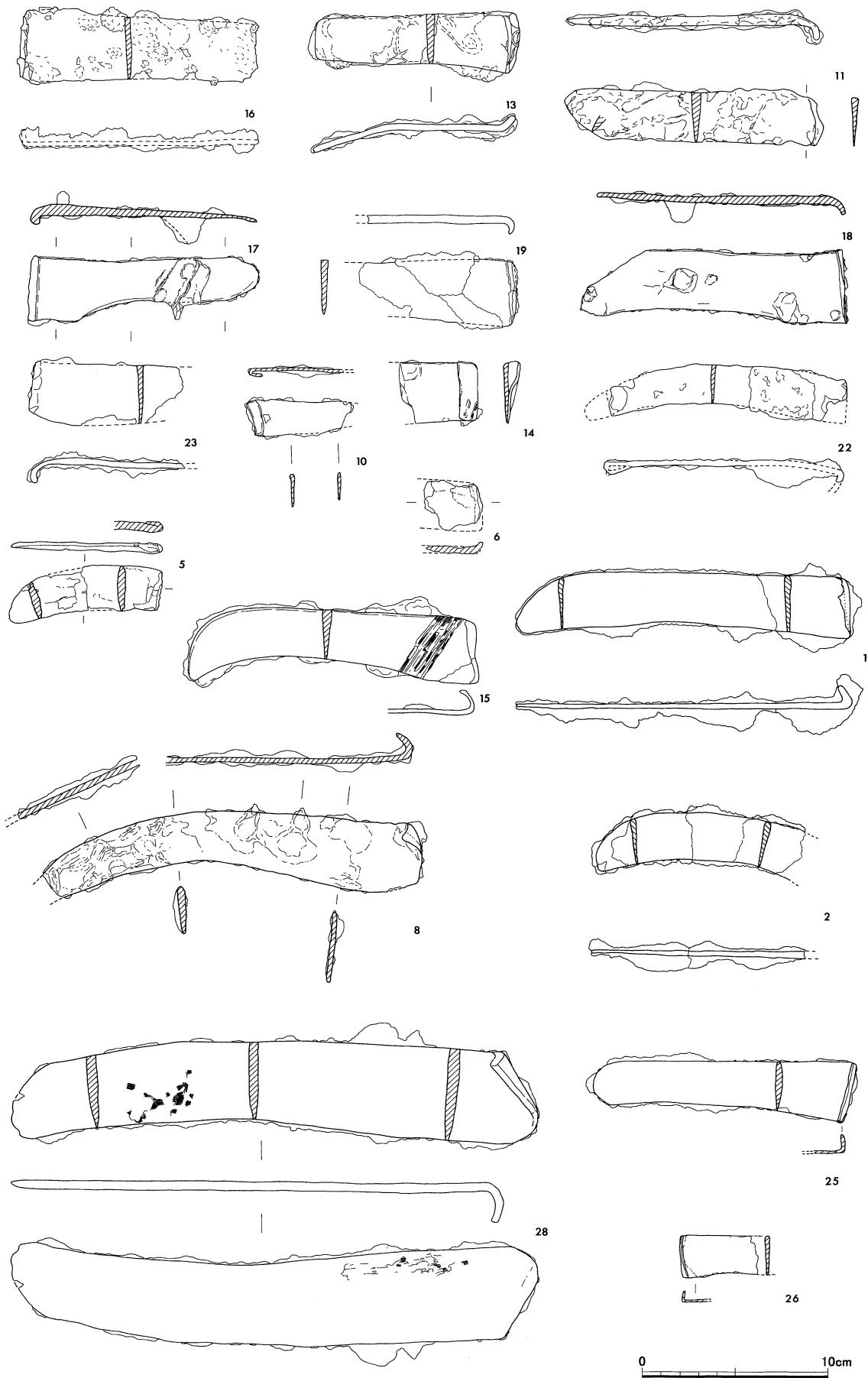
基部の折り返しは、基部全体を折り曲げるものと、基部の上端を斜めに折り曲げるものがある。また、折り曲げる方向は、刃部方向から見て基部をどちらの側に折り曲げているかを示している。

大型鎌で直刃のものは、県内では、神原神社古墳（20）しか知られていない。柄の木質が残っており、柄に対して鈍角に刃部が延びる。刃幅は狭いが、厚く造られており、工具に近い機能を持つもの（註3）ではないだろうか。

直刃のもの内、中型鎌に相当するものは斐伊中山2号墳から出土している。斐伊中山2号墳の鎌（16）は基部の折り曲げ方向が左である。先端を欠くため形状が不明であるが、地王砦跡出土（19）も含まれる可能性が高い。

道仙3号墳（13）からは直刃の小型鎌が出土している。斐伊中山2号墳のものとは、基部の折り曲げ方向以外に大きな差は見られないが、一回りほど小さい。

大型鎌の内、曲刃のものは、前立山遺跡（28）、兵庫遺跡（29・32）、物井横穴墓群7号横穴墓（38）か



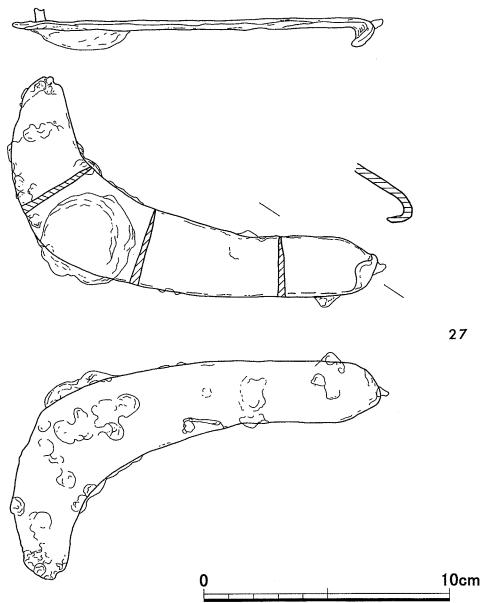
第74図 出雲・石見地方出土の古墳時代の鎌 (S = 1 : 3)

ら出土しているが、出雲部では現在まで知られていない。物井横穴墓群7号横穴墓出土の物（38）は、他の鎌と比べ、明らかに形態が異なるもので、漁労具と想像されるものである。

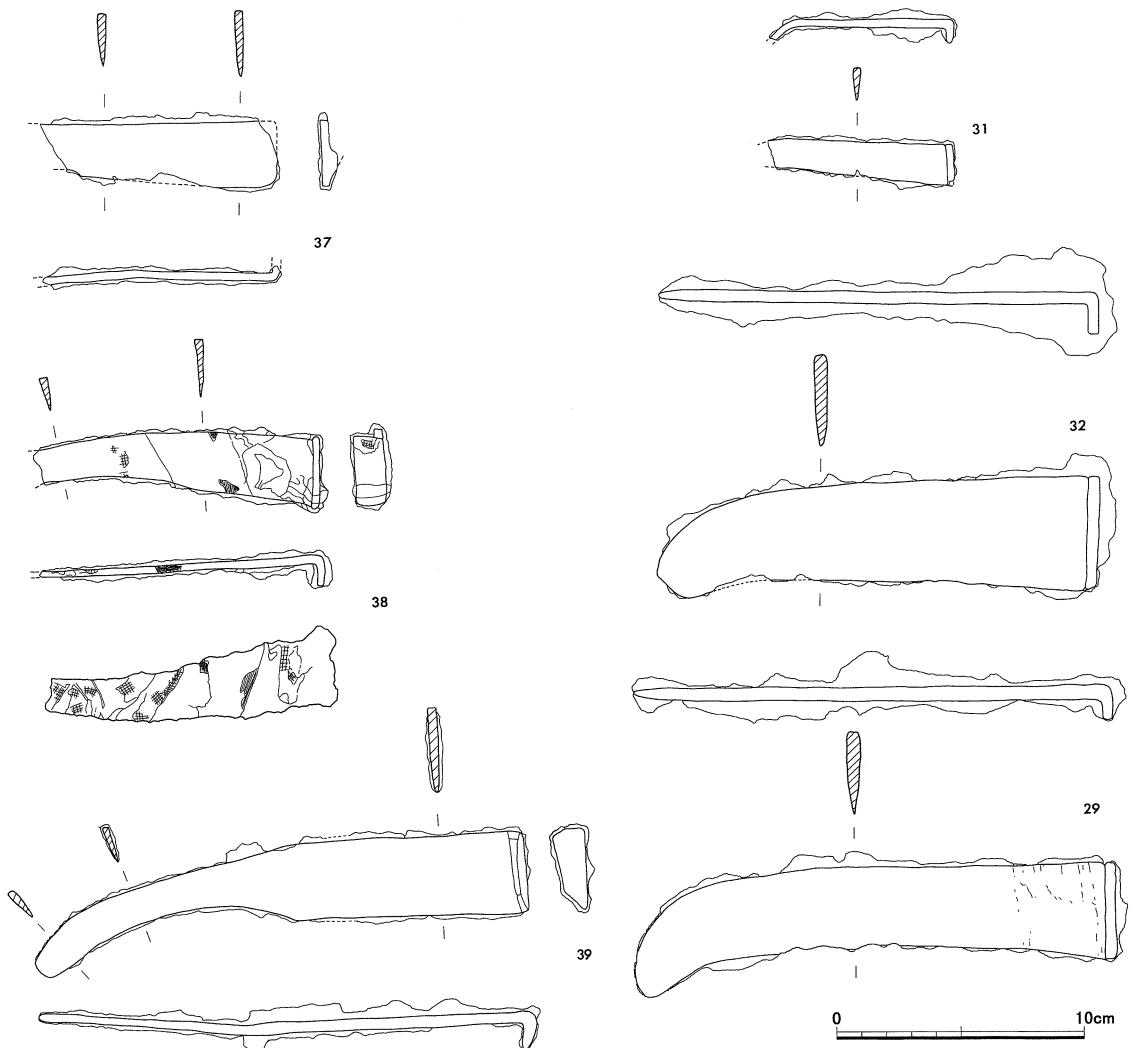
曲刃を呈す中型鎌は座王7号墳（1）、岩屋口遺跡（8）、奥才12号墳（11）、松廻1号横穴墓（15）、兵庫遺跡（29・31）などで出土しており、一般的な器種と言える。ただし、この中で、奥才12号墳（11）は、先端を尖らせているものの、対象物が滑らないようにする刃部の工夫が見られず、一般的な曲刃鎌とは言い難い。

曲刃の小型鎌は高広遺跡（5）、島田池遺跡（10）、兵庫遺跡（31）で出土している。

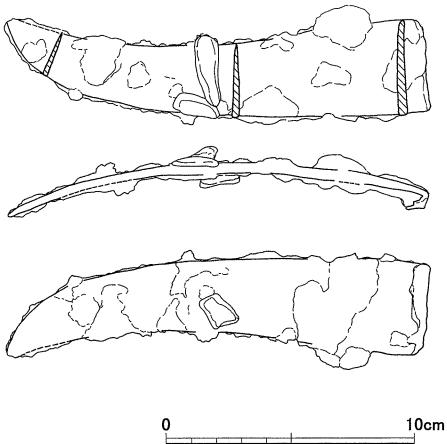
その他の鎌とした物には、上塩冶横穴群34



第75図 小才1号墳出土鎌（S = 1 : 3）



第76図 隠岐地方出土の古墳時代の鎌（S = 1 : 3）



第77図 御津中の井古墳出土鎌
(S = 1 : 3)

支群4号穴(24)や小才1号墳(27)のものが含まれている。刃幅が広く、全体に非常に強く湾曲したもので現在の鉈鎌に近い形状のものである。小才1号墳は、7世紀代の築造と考えられる。

前期古墳出土の鎌の内、中型のものは、斐伊中山2号墳のもの(16)と奥才12号墳のもの(11)がある。(16)は直刃で、基部の折り曲げ方向は左となっている。(11)は、刃部の内湾がなく曲刃とは言い難いものであるが、基部の折り曲げ方向は右である。道仙3号墳の直刃鎌(13)は小型鎌に分類されるものであるが、形態は(16)と大差ないように思われる。(13)の基部の折り曲げ方

向は右である。これらの鎌は、神原神社古墳(20)や前立山遺跡(28)のものとは大きさの点で、決定的な差があり、大型鎌と中・小型鎌とは機能が異なるものと考えられる。奥才12号墳(11)のものにも対象物を滑り難くする工夫が見られないことから、古墳時代前期の中・小型鎌は基本的に直刃で、基部の折り曲げ方向は右が多いと考えられる。

古墳時代中期については、時期を限定できる資料が少ないため、この時期の形態は不明である。勝負遺跡出土のものは先端を欠くため形状は不明であるが、刃部が内湾した形状になった、中型鎌と考えられるもので、基部を右に折り曲げている。地王砦跡出土の鎌(19)は、中期頃と考えられるが、この鎌は、中型の直刃鎌である可能性が高い。基部の折り曲げ方向は右である。御津中の津古墳は、土器が出土していないために断定しがたいが、石棺の特徴から5世紀代の築造と考えられる古墳である。御津中の津古墳からは、典型的と言える曲刃鎌(第77図)が出土している。

古墳時代後期のものでは山巻古墳出土のもの(14)がある。刃部の形態は不明であるが、中型鎌で、基部の折り曲げ方向は左である。森遺跡出土のもの(21)は住居跡内からの出土で、曲刃の大型鎌である。基部の折り曲げ方向は右である。横穴墓出土の鎌は、形態が解っているものについては、いずれも曲刃鎌で、直刃のものは見られない。横穴墓を構築する時期には曲刃鎌が一般的になっていると思われる。後期の鎌の基部の折り曲げ方向は、5割近い割合で左のものが見られる。上塩治横穴群(24)や小才1号墳(27)など刃部が大きく湾曲した特殊な形態の鎌が出土しているが、これらが見られるのは6世紀から7世紀の事と考えられる。

県内出土の鎌を見ると、基部の折り曲げ方向に関しては、左に曲げるものが増えると言う傾向はありそうだが、規則性や画期は見いだせない。時期を特定できる資料の内、県内最古の左鎌は斐伊中山2号墳(16)であるので、古墳時代前期末以降は、両者が共存するものと思われる。

刃部の形態は、後期には曲刃に集約されていく傾向が見られる。森遺跡出土鎌(21)を見ると大型鎌も同様の変化をするものと考えられる。また、前期の曲刃は、奥才12号墳(11)のものが一般的な曲刃と言い難いことから確実なものは存在しないことになり、今のところ、山巻古墳出土のもの(14)などが曲刃の最古級とせざるを得ない。中期には時期を特定できる資料が極端に少ないが、両者が見られる可能性がある。この中で、御津中の津古墳のものが、最古の曲刃鎌と考えられるもので、全国的に見ても5世紀前半を境に一般的な曲刃鎌が出現する(註4)ものと考えられる。

県内出土の鎌を概観した結果、三刀屋熊谷1・2号墳出土鎌と似た形態のものは見られなかつた

No.	遺跡名	所在地	鎌の種類	折返し方向	折返し位置	長さ	幅	刃部長	厚さ	時期
1	座王7号墳	伯太町	曲刃	左	全体	17.8	3.1	17.3	0.3	後期
2			曲刃	不明	不明	2.4		不明	0.3	後期
3	上天馬山古墳群	伯太町								
4	出土地不明	広瀬町	曲刃							
5	高広遺跡IV区	安来市	曲刃	右	全体	8.5	2.3	7.8	0.4	後期
6			不明	右	全体	不明	2.7	不明	0.4	後期
7	中山古墳	安来市								
8	岩屋口IV区	安来市	曲刃	右	上端	不明	3.7	不明	0.4	
9	勝負遺跡	東出雲町	不明	右	全体	不明	2.9		0.3	大谷1～2期
10	島田池遺跡6区	東出雲町	曲刃？	左	全体	不明	1.9	不明	0.2	大谷4～5期
11	奥才12号墳	鹿島町	曲刃	右	全体	13.4	2.3	13.2	0.5	前期
12	御津中の井	鹿島町	曲刃	右	全体	16.7	3.8	16.3	0.4	中期？
13	道仙3号墳	松江市	直刃	右	全体	10.8	3	9.9	0.5	前期
14	山巻古墳	松江市	不明	左	全体	不明	3	不明	0.3	
15	松廻1号横穴墓	八雲村	曲刃	右	全体	15.5	3.3	12.7	0.5	後期
16	斐伊中山2号墳	木次町	直刃	左	全体	12.5	3.8	12	0.3	前期末
17	三刀屋熊谷1号墳	三刀屋町	その他	左	全体	12.1	3.3	9.9	0.6	前期末～中期
18	三刀屋熊谷2号墳	三刀屋町	曲刃	右	全体	14.1	3.7	10.9	0.5	中期？
19	地王砦跡	三刀屋町	直刃	右	全体	不明	3.6	不明	0.5	
20	神原神社古墳	加茂町	直刃	右	上端	20	2.9	18.8		前期
21	森遺跡	頓原町	曲刃	右	全体	19.8	4	19.2	0.2	大谷5期
22	渋谷遺跡B区	横田町	曲刃	右	上端	不明	2.3	不明	0.3	大谷4～5期
23	下大仙子遺跡	横田町	不明	左	全体	不明	3.3	不明	0.3	
24	上塩治横穴群34支群4号穴	出雲市	その他	目釘	無し	不明	2.5	不明	0.4	後期
25	諸友大師山II支群	大田市	不明	左	全体	不明	2.2	不明	0.2	後期
26			その他	右	全体	14	2.6	12.3	0.3	後期
27	小才1号墳	旭町	その他	左	上端	15.9	3.5	14.5	0.4	7世紀代
28	前立山遺跡	六日市町	曲刃？	右	上端	28.2	4.8	26	0.5	前期
29	兵庫遺跡	西ノ島町	曲刃	右	全体	19.4	3.9	18.2	0.6	後期
30			不明	左	全体	不明	3.4	不明		後期
31			曲刃？	右	全体	不明	1.6	不明		後期
32			曲刃	右	全体	17.8	4.6	16	0.5	後期
33			曲刃	不明	不明	不明	3	不明		後期
34			直刃	右	全体	17.4	3.3		0.3	後期
35			直刃	左	全体	16.5	2.7			後期
36			直刃	右		16.2	2.3			後期
37	物井8号	西ノ島町	不明	不明	不明	2.5	不明	0.3		後期
38	物井7号	西ノ島町	曲刃	右	全体	不明	2.7	不明	0.3	後期
39			不明	左	全体	不明	2.8	不明	0.4	後期

第5表 県内出土の古墳時代の鎌

が、鎌の形態については、5世紀代に大きな変化があるものと推定できる。三刀屋熊谷1・2号墳出土のもの（17・18）は、先端部の形状などから曲刃鎌へ移行する際の形態とも想像されることから、斐伊中山2号墳の直刃鎌より後出し、御津中の津古墳などの中期の曲刃鎌に先行するものと想像される。